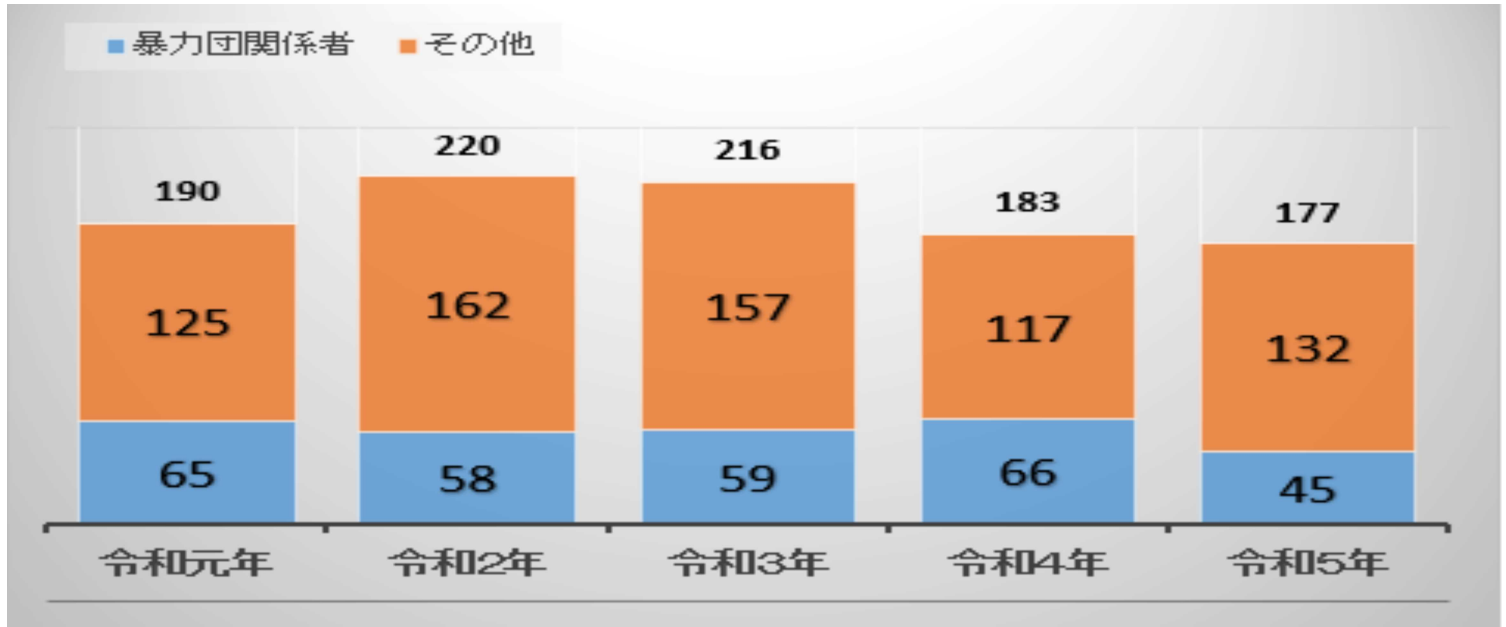


県内の薬物情勢

薬物検挙人員の推移



- 奈良県における薬物事犯の検挙人員は、ここ数年は200人弱で推移しています。
- 令和5年中の薬物事犯の検挙人員は、177人（前年比－6人）であり、男女別では、男性が160人、女性が17人となっています。

令和5年中の薬物事犯検挙状況

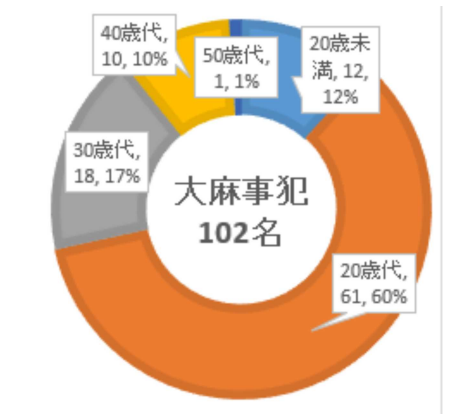
【罪名別検挙状況】

覚醒剤取締法違反	68人
大麻取締法違反	102人
その他	7人

【主な薬物押収量】

覚醒剤	約 57 g
乾燥大麻	約 15,502g
大麻草	112本
液体大麻	約 46 g

【年齢層別検挙状況】



- 昨年に続いて、令和5年においても大麻事犯が覚醒剤事犯を上回りました。
- 覚醒剤事犯は40歳代が最も多く、30歳代と40歳代で全体の約6割を占めています。
- 大麻事犯は20歳代が最も多く、10歳、20歳代で7割を超えています。

大麻は薬物乱用のきっかけとなる「ゲートウェー・ドラッグ」とされ、若者を中心に乱用が社会問題となっています。

「1度だけ」という好奇心や遊びのつもりでも、薬物の依存症によって、自分の意思ではやめることができなくなります。